



「木」と「革」
ひとつひとつに想いを込めた
2人のモノづくり

木と革を使った家具や小物を製作している「aoyama」。緑溢れる空気感の中で製作した木と革たちは、どれも物語・想いを感じられる。aoyamaには2人のモノづくりがいる。ご主人の和志さんは「木のモノ」、奥様の有紀さんは「革のモノ」を。2人が織りなす木と革たちは、暮らしにスツと馴染むものばかり。例えば、座面を革にした木のスツール(写真左)や、持ち手を木にした革のカバンなど、どれも「木と革」無くしては考えられないモノが並ぶ。「つくるという事は使ってもらうモノを想像してつくります。ストーリーがありながら、自分たちらしく、暮らしに溶け込むモノを作り続けていきたいです」。

自宅に帰っても工房をどうあるべきかを話し合っているという。そして、試作の時は、「こうした方がより良い」と職人・パートナーとしてしっかりとモノに向き合いながら試作を重ねる。モノづくりに真剣に取り組み、丁寧に、突き詰めていくスタイルが、色んな地域にaoyamaファンがいるひみつだと思う。